

【問題】

J. ロールズの『正義論』における思想について説明せよ。

【答案例】

20世紀のアメリカでは、
実験・データに基づく実証主義的な政治学が主流となり、
『正義』とは主観的な事柄にすぎないとの見方が主流であった。

↓これに対して

J. ロールズは、
著書『正義論』において、
社会制度の『正・不正を判定するための規準』を示し、
正義に関する規範的な理論を復活させようとした。

↓すなわち、

価値感が多元化した社会において、
新たな共生のルールを正義の原理として導き出そうと試みたのである。

↓

以下、ロールズの定式化した正義の原理について説明する。

↓

まず彼は、
原初状態において、
人々は自身の将来的な地位等を予測できず、
『無知のヴェール』という情報制約の下にあるとする。

↓この場合、

人々は自分が社会で最も不利な状態に置かれた時を想定し、
それが受け入れ難い状況にならないよう、
正義の原理を選択するはずである。

↓これは

以下の2つの原理に定式化される。

↓まず

第一原理として、
各人は基本的自由への権利を平等にもつ（平等な自由の原理）。

↓次に

第二原理として、
①公正な機会の均等を図る（機会均等原理）。
②結果的に発生した社会的・経済的不平等に対しては、
可能な限り改善する（格差原理）。